

不登校・行き渋りに関するアンケート結果

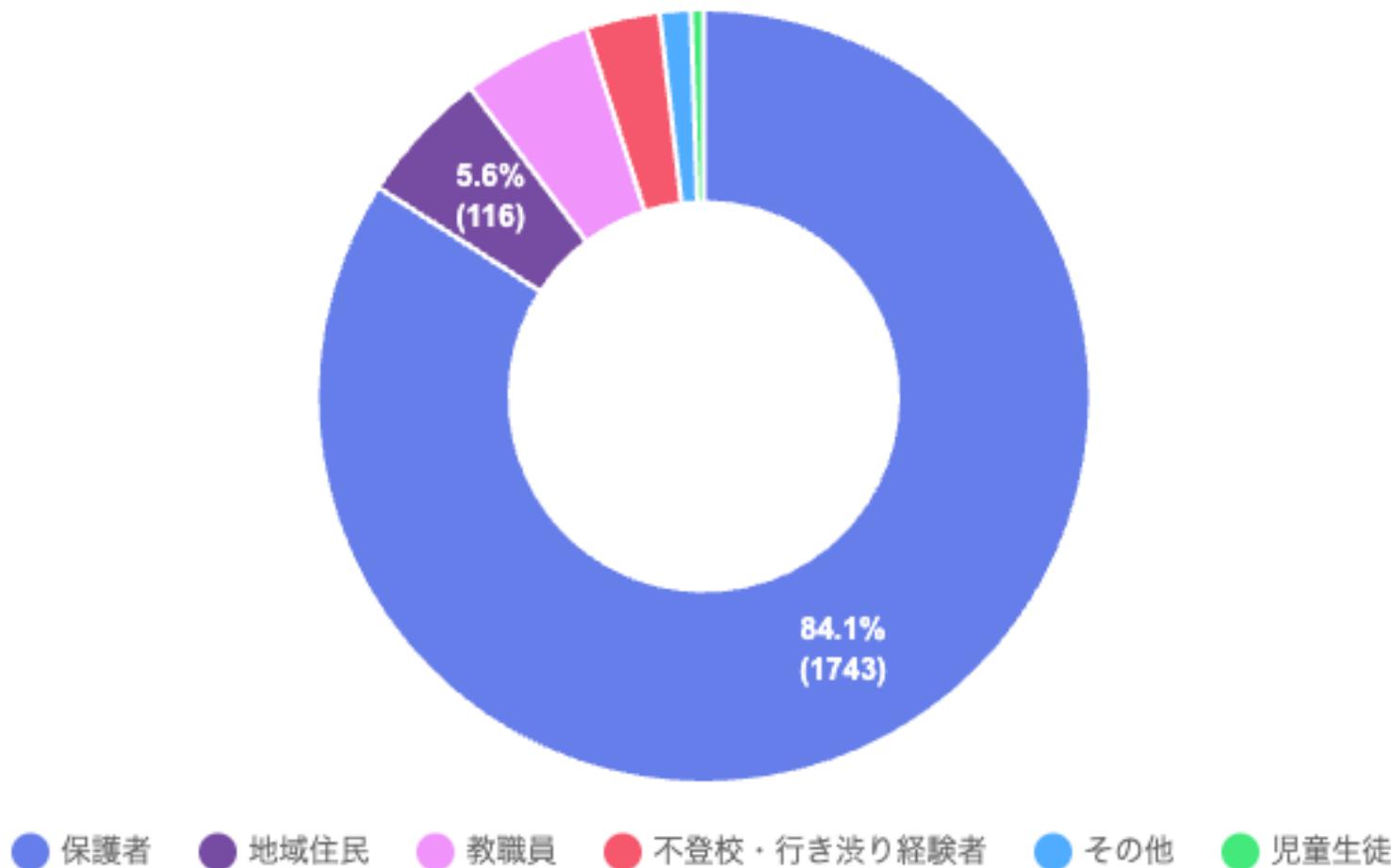
第80回指定都市PTA情報交換会 千葉市大会 第3分科会

集計日：2025年9月8日

有効回答数：1921名

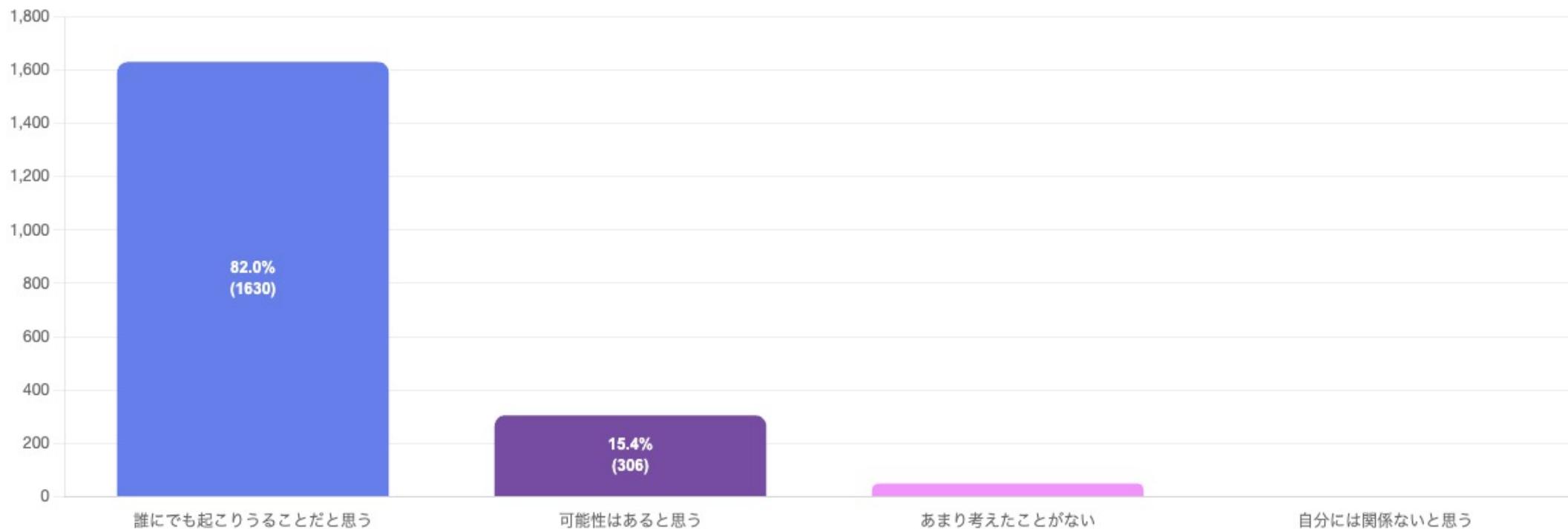
【 基本情報: あなたの立場をお聞かせください】

回答者の立場 (複数回答可)



Q.1: 「自分や子どもが学校に行きづらくなる可能性」についてどう思いますか？

学校に行きづらくなる可能性への認識

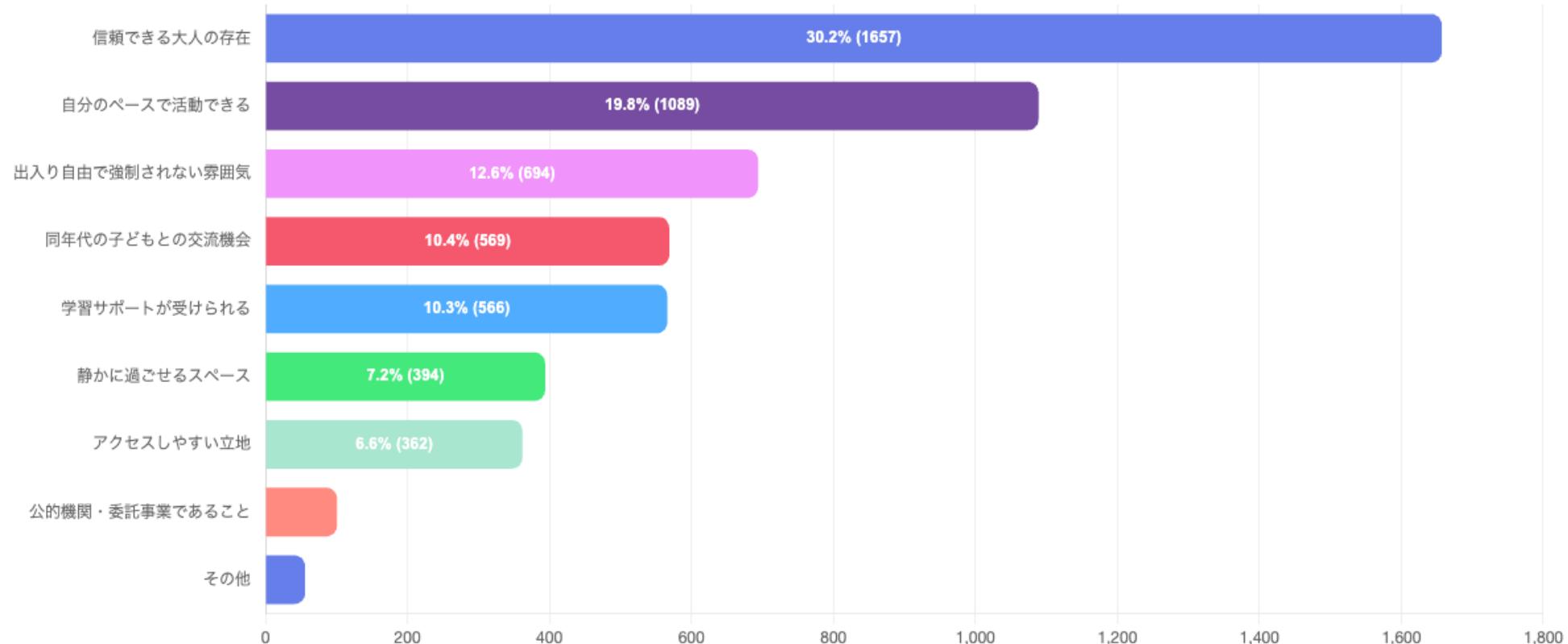


重要な認識の変化

回答者の84.9%が「誰にでも起こりうることだと思う」と回答しており、不登校・行き渋りが特別なことではなく、誰にでも起こりうる現象として広く認識されていることが明らかになりました。これは支援体制構築の重要な基盤となる認識です。

Q.2: 子どもが安心して過ごせる居場所に必要な条件は?

居場所に必要な条件 (3つまで選択可)



「その他」回答の分析

28%

心理的安全性の確保

- 心理的安全性が約束される場所
- 自分の存在価値がある環境
- 理不尽な決まりがない

25%

柔軟な環境とアプローチ

- 子どもが最もリラックスできる環境
- 本人がやりたいことができる場所
- 自分らしくいられる場所

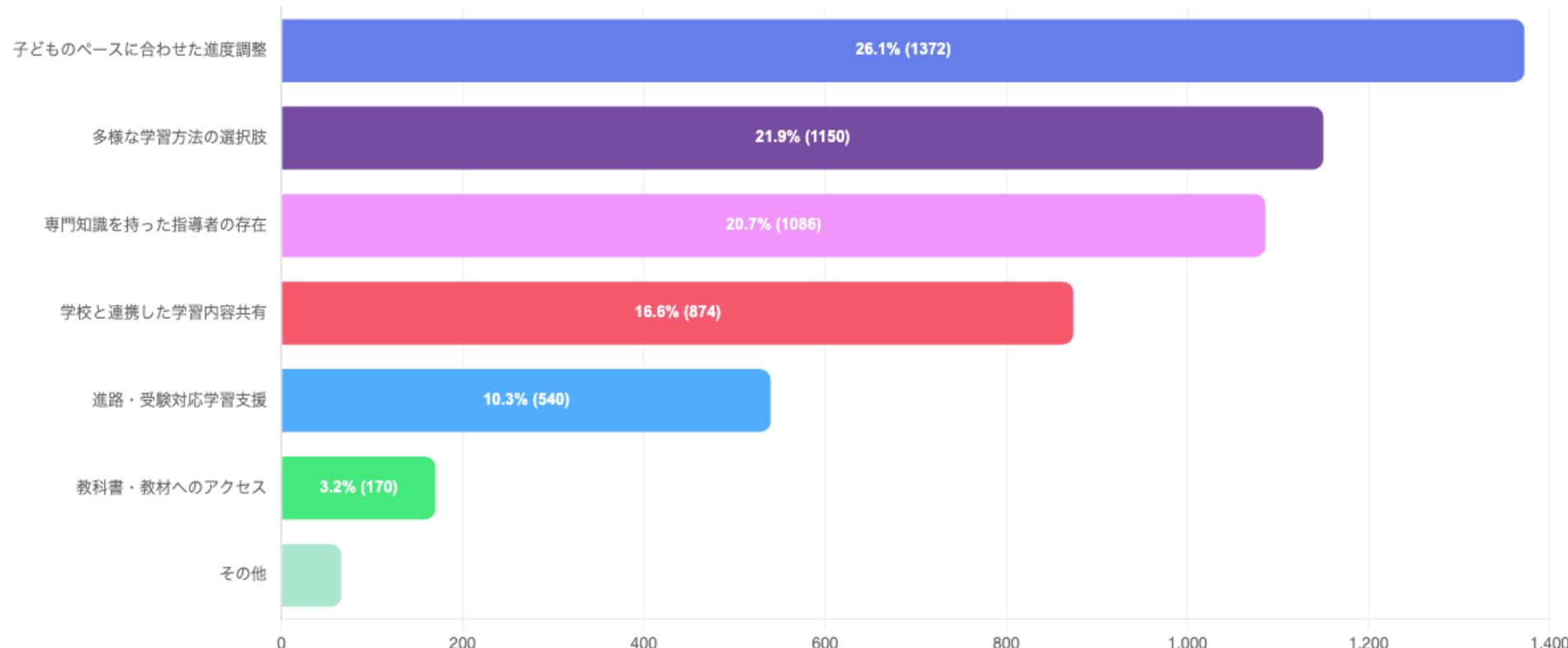
23%

多世代交流と体験機会

- 異年齢交流の場
- 様々な世代とコミュニケーション
- 楽しいと感じる場所

Q.3: 不登校の期間に通う学習の場で大切なことは?

学習の場で重視すること (3つまで選択可)



「その他」回答の分析

35%

個別最適化された学習環境

- ・ その子の得意な事、好きな事が延ばせる学びの場
- ・ 個々のペースだけでなく特性に合わせた学び
- ・ 子どもが安心して人間関係を築ける場

32%

安全で信頼できる環境

- ・ 心と体の安全を担保してくれる場所
- ・ 信頼できる大人の存在
- ・ 来るだけでいいという安心感

28%

体験型・実践的学習

- ・ 体験や活動ができるプログラム
- ・ 生活や体験活動を中心とした学習
- ・ 自分と他者を大切にする経験の積み重ね

Q.4: 学習をサポートする人として適切だと思うのは?

学習サポート者として適切な人 (2つまで選択可)



「その他」回答の分析

42%

専門知識を持つ支援者

- 不登校や発達障害に理解のある人
- 心理士や療育指導者など専門家
- 児童心理などに心得のある人

38%

子どもに寄り添える人

- 子どもの気持ちを理解し寄り添える人
- 子どもと相性が良く信頼できる人
- 子どもを1人の人間として扱える人

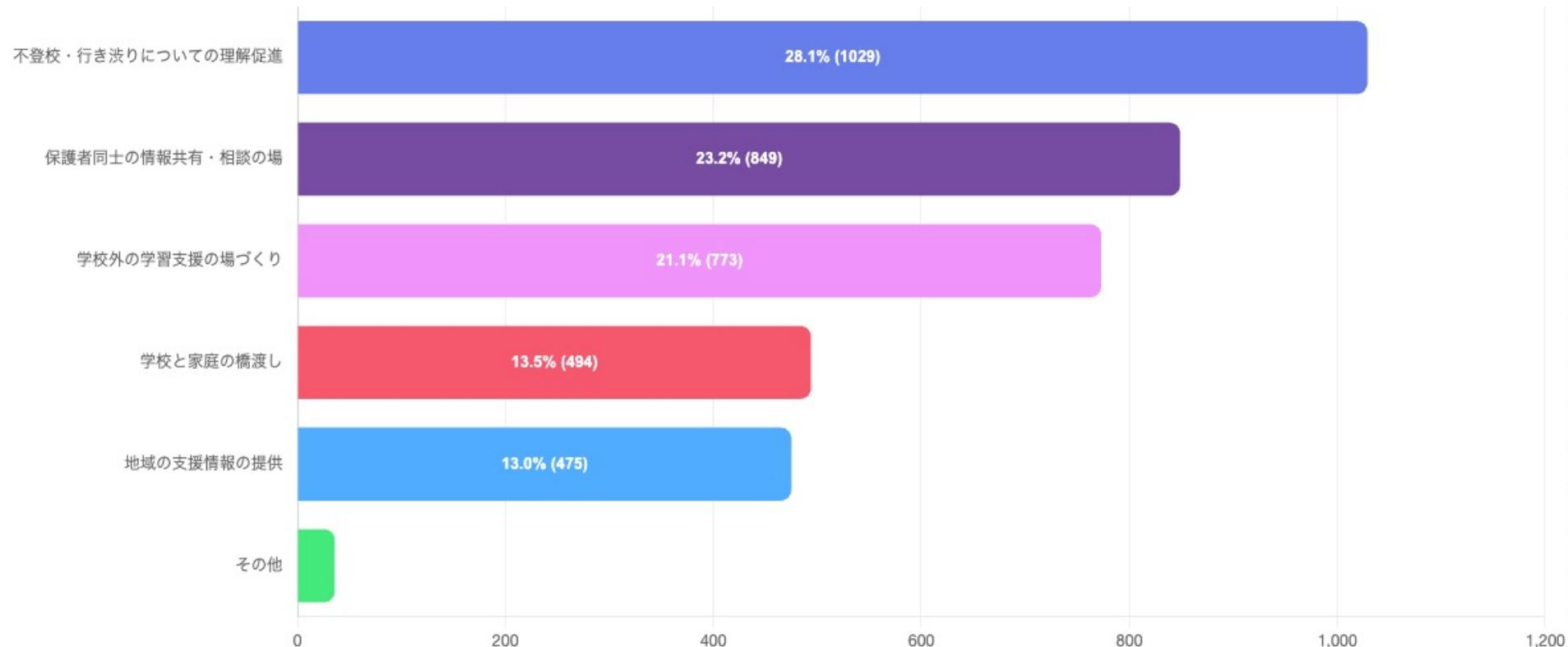
20%

適切な資格・経験保持者

- 社会福祉士や精神保健福祉士の有資格者
- 特別支援学校教員経験者
- 身元のしっかりしている人

Q.5: 地域やPTAとして取り組めることは?

地域・PTAでの取り組み (2つまで選択可)



「その他」回答の分析

39%

専門的支援体制の構築

- ・発達特性や子どもも理解の学びの場提供
- ・積極的な専門職の介入
- ・相談機関の案内配布

33%

適切な距離感での見守り

- ・そっとしておいて欲しい
- ・でしゃばらない、いらんこと言わない
- ・個別事案対応の難しさ認識

28%

居場所と活動機会の提供

- ・学校内外の居場所作り
- ・子どもが関わる主体的イベント開催
- ・地域の居場所作り

Q.6: 地域やPTAで既に取り組んでいることは?

既存の取り組み（自由記述回答の分析）

22%

公民館等での居場所提供

- ・公民館での自習スペース設置
- ・地域ボランティアによる居場所づくり
- ・子どもセンターでの場所提供

18%

学習支援・指導

- ・民生児童委員による学習支援
- ・公民館での無料塾開設
- ・教員経験者によるボランティア指導

15%

親の会・交流支援

- ・不登校の親の会開催
- ・保護者同士の情報交換の場
- ・スクールカウンセラーとの交流会

13%

学校内支援体制

- ・別室での学習サポート
- ・サポートルーム設置
- ・教室以外の登校支援

12%

特に取り組みなし

- ・具体的な取り組みは見当たらない
- ・これから取り組みたい
- ・把握していない

8%

フリースクール・外部機関連携

- ・フリースクール設置・紹介
- ・教育センター連携
- ・外部専門機関との橋渡し

7%

日常的な見守り・声かけ

- ・登校時の見守り・声かけ
- ・地域での挨拶・気遣い
- ・通学路での安全確認

3%

体験活動・イベント

- ・不登校児対象の運動教室
- ・交流イベント開催
- ・体験プログラム提供

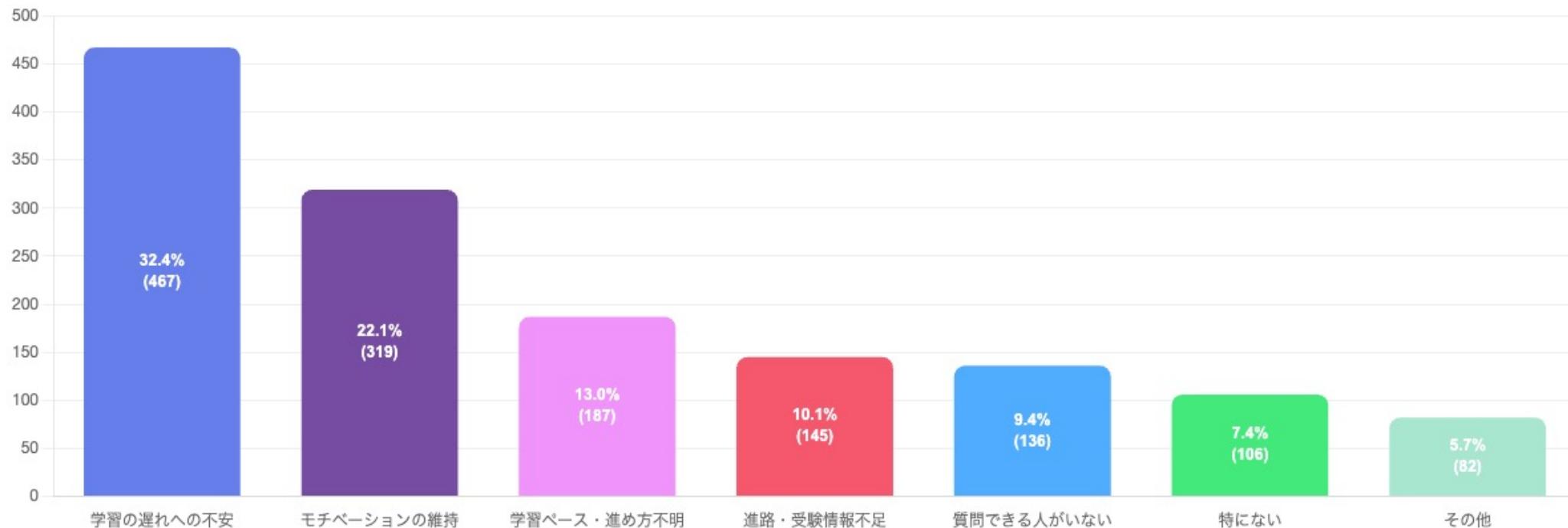
2%

オンライン授業・IT活用

- ・リモート授業実施
- ・ギガタブによるオンライン授業
- ・IT機器を活用した学習支援

Q.7: 【経験者向け】学習面で一番困ったことは？

学習面での困りごと（2つまで選択可）



「その他」回答の分析

31%

学習への抵抗感・恐怖感

- ・学校を想起させる教科書への抵抗感
- ・勉強に全く向かえなくなること
- ・学習そのものに対する恐れ・不安

27%

学校・教師との関係性問題

- ・教師の理解不足・対応の問題
- ・学校からの学習サポートが全くない
- ・教師への不信感から教科が嫌いに

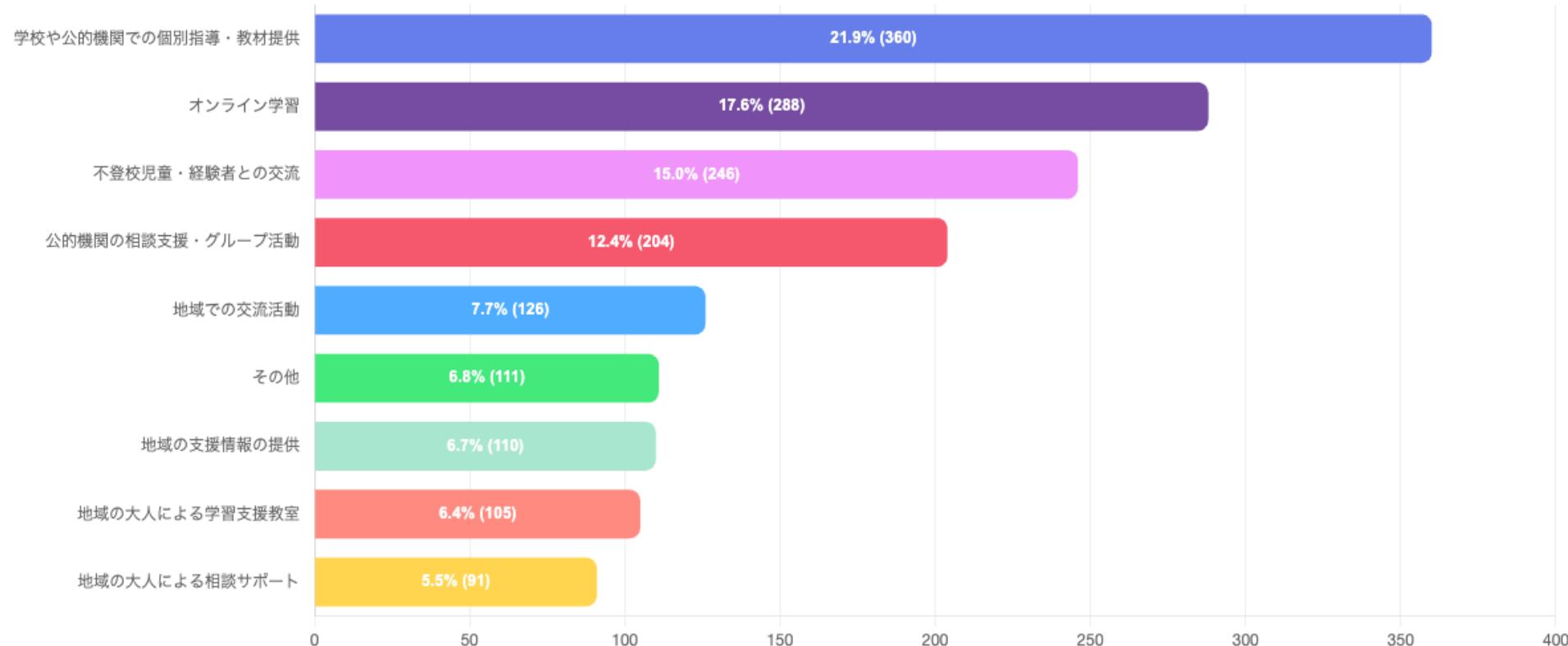
25%

家庭での学習支援の困難

- ・親が子どもに教える感情面での難しさ
- ・仕事をしているため調整が困難
- ・専門知識と技術情報の不足

Q.8: 【経験者向け】役に立った（または役立ちそうな）支援は？

有効な支援（3つまで選択可）



「その他」回答の分析

34%

専門的カウンセリング・相談

- ・スクールカウンセラーとの面談
- ・産業カウンセラーとの定期カウンセリング
- ・児童精神科医師・カウンセリング

28%

学校教員の理解・連携

- ・保健室・保健体育教員の存在
- ・信頼できる先生の存在
- ・担任からのこまめな連絡

23%

代替教育・学習機会

- ・フリースクール
- ・別室での学習
- ・進研ゼミなどの通信講座

Q.9① 学校に行けなくなったとき、最も心配なこと

保護者・当事者の最大の不安（自由記述回答の分析）

18%

学習の遅れ・進路への影響

- ・学習の遅れや進路が決まらないこと
- ・進級・受験への影響
- ・将来的な選択肢の減少

16%

社会からの孤立・引きこもり

- ・そのまま引きこもりになること
- ・社会との繋がりがなくなること
- ・ずっと社会に出られなくなる不安

14%

子どもの精神的健康

- ・自分を責めて精神的に病むこと
- ・自己肯定感の低下
- ・命を絶ってしまうことへの恐怖

12%

対人関係・社会性の欠如

- ・人との関わりが希薄になること
- ・社会性が育たないこと
- ・コミュニケーション能力の低下

11%

将来の自立への不安

- ・将来自立できるかどうか
- ・社会人になって生活できるのか
- ・親亡き後の生活

10%

学校復帰の困難さ

- ・また学校に戻れるかどうか
- ・復帰のタイミングの難しさ
- ・長期化への懸念

9%

日中の居場所・見守り

- ・共働きで日中一人にする不安
- ・家に一人でいることの心配
- ・仕事との両立の困難

6%

友人関係の断絶

- ・友達との関係が希薄になること
- ・同年代との交流機会の損失
- ・友人グループからの離脱

4%

原因の不明確さ

- ・行けなくなった理由がわからない
- ・対処法が見つからない不安
- ・適切な支援方法の判断困難

Q.9② 学校に行けなくなったとき、あると安心な支援

求められる支援内容（自由記述回答の分析）

22%

学習支援・教育サポート

- ・オンライン授業への参加
- ・個別指導・学習サポート
- ・学校外での学習支援場

18%

安全な居場所の提供

- ・家以外の安心できる居場所
- ・学校外で過ごせる場所
- ・自由に入り出しができるフリースペース

16%

専門的相談・カウンセリング

- ・専門家によるカウンセリング
- ・親子で相談できる場所
- ・いつでも相談できる窓口

13%

同じ境遇の人との交流

- ・不登校経験者との交流
- ・同じ悩みを持つ保護者の会
- ・当事者同士のつながり

11%

学校との連携・理解

- ・学校からの定期的な連絡
- ・担任の理解とサポート
- ・学校との情報共有

8%

経済的支援

- ・フリースクール費用の補助
- ・学習支援・シッター費用補助
- ・交通費などの経済的援助

6%

地域社会の理解促進

- ・不登校への理解促進活動
- ・偏見のない地域社会作り
- ・温かい見守りの環境

4%

進路・将来設計支援

- ・進路についてのアドバイス
- ・多様な進路選択肢の情報提供
- ・将来設計に関する相談

2%

訪問・アウトリーチ支援

- ・家庭訪問による支援
- ・訪問型学習サポート
- ・アウトリーチ型相談支援

Q.10: 地域やPTAに望むことや提案

地域・PTAへの要望（自由記述回答の分析）

28%

理解促進・啓発活動

- ・不登校への理解促進
- ・偏見をなくす啓発活動
- ・誰にでも起こりうることの周知

22%

居場所・学習支援の場づくり

- ・学校外での居場所提供
- ・地域での学習支援場設置
- ・フリースクール的な場の増設

18%

温かい見守り・適切な距離感

- ・そっと見守ってほしい
- ・変な目で見ないでほしい
- ・過干渉にならない支援

12%

保護者支援・交流促進

- ・不登校保護者同士の交流の場
- ・親のメンタルサポート
- ・情報共有・相談の機会

8%

専門的支援・連携強化

- ・専門家との連携
- ・相談窓口の充実
- ・適切な支援機関への橋渡し

6%

学校環境の改善要求

- ・学校への改善働きかけ
- ・いじめ防止・対策強化
- ・教員の意識改革

4%

情報提供・制度充実

- ・支援制度の情報提供
- ・進路選択肢の情報共有
- ・相談先の周知

1%

PTAは関与不要

- ・PTAには望むことはない
- ・専門家に任せるべき
- ・地域では限界がある

1%

その他

- ・経済的支援
- ・制度改革・政策提言
- ・多様な学習機会の提供

アンケート結果サマリー

84.9%

誰にでも起こりうると認識

不登校・行き渋りを特別なことではなく、誰にでも起こりうることと認識する回答者が圧倒的多数

86.3%

信頼できる大人の存在が最重要

子どもが安心して過ごせる居場所に最も必要な条件として「信頼できる大人の存在」が選ばれた

71.4%

個人のペースに合わせた学習

不登校期間の学習で最も重視されるのは「子どものペースに合わせた進度調整」

71.6%

子どもとの相性重視

学習サポーターには「子どもとの相性が良い人」が最も適切とされた

53.6%

理解促進が最優先課題

地域・PTAの取り組みとして「不登校・行き渋りについての理解促進」が最多回答

24.3%

学習の遅れが最大の不安

経験者・保護者が学習面で最も困ったのは「学習の遅れへの不安」

18.7%

公的支援が最も有効

「学校や公的機関での個別指導や教材提供」が最も役立つ支援として評価された

22%

学習支援への強いニーズ

安心な支援として「学習支援・教育サポート」への要望が最も多い

◎ 総合的な洞察

本調査から、不登校・行き渋りが社会に広く認知され「誰にでも起こりうること」として受け入れられつつあることが明らかになりました。支援において最も重要なのは「信頼できる大人の存在」であり、子ども一人ひとりのペースに合わせた個別最適化されたアプローチが求められています。地域・PTAには理解促進と温かい見守りが期待される一方、専門的な学習支援や居場所づくりへの具体的なニーズも高く、多層的で継続的な支援体制の構築が必要です。